



アミール・ツアルファティ 御霊と花嫁はいう、「来てください！」

今日、私がシェアしたいメッセージは、ずっと私の胸の中にあったもので、黙示録の締め言葉のようなものです。ご存知のように、それは非常に重要な書で、あまりにも重要な為、キリスト教徒によって最も無視されて来ました。

では、始める前にお祈りをしましょう。

お父様、この機会を感謝します。あなたの御言葉を共に調べ、私達の希望、私達の喜び、励ましをあなたから受け取ります。ですから今朝、あなたが、あなたの御言葉を通して私達全員を励ましてください。そして、誰一人として、ここへ来た時と同じ状態で家に帰る事はありませんように。あなたに感謝し、あなたを祝福します。このお祈りをイエシュア、イエスの御名によって捧げます。アーメン。

さて、黙示録です。美しく、最も重要な書の一つ... 実際、聖書全体で唯一、これを学ぶ時、読む者と、教える者に大きな祝福が約束されている書です。素晴らしい書です。そしてそれは、私達全員に向けて書かれています。私達のほとんどは、その書の大部分を経験しませんが。では、なぜ、それが私達に向けて書かれたのでしょうか？ 神が、どんな事から私達を保護されるのかを知るためです。そして、それは、私達に宛てて書かれました。

世ではありません。世には、何の手がかりもなく、世は知りたくもなく、世は、世の物事に喜びを感じています。世はこの書の宛先ではありません。この書は、私達のためです。

しかし、何が起こるかを私達が知ったら、私達は、さらに情熱を持って出かけて行き、御父の業に従事するでしょう。

さて、この書について私が大好きなのは、非常に興味深い始まりと終わりがあって、まるで、アサリのように...私はユダヤ人ですから、アサリの事はよく分かりませんが...

しかし、始まりと終わりの美しい表紙があって、これらはすべて素晴らしい言葉、素晴らしい約束で、その中間は、他の何でもなく人間の行為の結果です。しかし、表紙は神の愛であって、内容は、世が文字通り自分自身に招いている多くの裁きです。

しかし、一つ、この書を本当に特徴付けているものは、神の愛、神の約束です。最初から最後まで。ただ、今朝、私が集中したい部分または聖句は、22章の17節です。

「御霊も花嫁も言う。『来てください。』これを聞く者は、『来てください』と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。」（黙示録22:17）

ウォ... これは聖書の驚くべき素晴らしい箇所で、多くの疑問を提起します。私は、それをギリシャ語で読みましたが、お望みなら皆さんもギリシャ語でご覧になれますが、ギリシャ語では、美しい文章です。はい、読んでみてください。ただ、私が、これをギリシャ語で読んだ理由は、私達が尋ねるべき、非常に重要な質問があるからです。良いですか？

それは「イエス、来て下さい。」なのか、それとも「イエスの所に来なさい。」なのか？

なぜなら、実際、ギリシャ語の文面からでも、両方の解釈が出来るのです。

それは美しいです。なぜなら、明らかに、主が来られるのを待ち焦がれる教会が見られますから。

しかし、また、未信者がイエスのところに来る事を願われる、主の思いも見られます。

ヨハネ7:37-39を思い出します。

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」（ヨハネ7:37-39）

「え、ちょっと待って？ 私は聖霊が常にあると思ったよ。」 まあ、それは本当です。神は、常にどこにでも居られ、神の御霊は、常にどこにでもあります。しかし、教会はそれまでの地球史上、他の誰一人として、もしくは、どの団体も受け取った事のないものを受け取りました。それは、数節後に出て来ます。

では、私達はどの霊について話しているのでしょうか？ ヨハネにはこうあります。

もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの...（もうひとりの」と言ってください。）もうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。（ヨハネ14:15-16）

なぜ私は、「もうひとり」を強調するのか？ なぜなら、こんな事を教える人がいるからです。

「聖霊は、イエスであって、イエスは御父、御父は聖霊、そして 御父はイエスで、すべて1つだ」と。それは「ワンネス」と呼ばれ、すべて同じである、と教えます。

いいえ。イエスは言っています。見てください。

「わたし（御子）は父（御父）にお願いします。 そうすれば、父は、”もうひとり”の助け主を あなたがたにお与えになります。」 彼が、もうひとりの助け主をお与えになる。「その助け主が、（何？）いつまでも あなたがたと、ともにおられるためにです。」 そして、それは何ですか？ 「その方は、真理の御霊です。 世は...」 世は何ですか？

誰かが私のところに来て、「アミール、このラビのこのビデオを見てください。 彼はイエスを見た、彼はアレを見た、コレを見た...」 と言うたびに、私は彼らに「そこで止めなさい。」と言います。彼は聖霊を持っていません。彼は、イエスについて、何も話すことができません。そういう事です。ごめんなさい。ラビであろうと、シュマバイであろうと、関係ない。世の中から、そういったものを取り入れるのを止めて、御言葉から、それらのものを受け取ってください。

そして、彼は言われます。「世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。」そして彼は言われます。見てください。「わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。」（ヨハネ14:17-18）

イエスは基本的に仰っています。まず第一に、神は、あなたを放っておかれません。

「わたしは、あなたのために場所を備えます。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。しかし、あなた方に言うておきます。わたしは、父に、この世からあなた方を取り去ってくださるよう、とは祈りません。」

なぜなら、教会の目的は何ですか？ 何になる事ですか？ 世の光、塩になる事です！

世から取り去るポイントは何ですか？ 神は、世が救われることを望んでおられます。

神は、実に...教会を愛された？ 世を愛された！ だから、主は言われたのです。父よ。分かりました。彼らは留まります。しかし、「悪い者から守ってくださるよう、お願いします。」（ヨハネ17:15参照）

彼は私達に、真理の御霊を与えてくださいました 御父から来ていないものを、私達が理解する為です。そして、彼は助け主であって、彼は、私達を助けるためにそこにいます。

「ああ、もう本当に大変で...」 あなたは、神の御霊が内住しているのです。

そして、彼の名前は助け主です。「ああ、それについて祈る事も出来るな...。」

はい、できますよ。 時に、私達はすべてを試してみて、それから祈ります。そして、彼はヨハネ15章で言われます。

「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち（誰から？）父から出る（何の？）真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。」（ヨハネ15:26）

地球上で、聖霊を持ちながらイエスを証しない人は、一人も居ません。だから、イエスを受け入れないラビが、聖霊を持つ者には、なれません。非常に簡単です。彼は、主任ラビになることは出来るでしょう。彼は、最も偉大な学者にも、教授や博士になることも出来ます。

しかし、もしその人が、イエスは神であり、受肉した神であると、証しできないなら、人となって、私達のために住まわれた"ことば"、私達のために死んでくださった方、イエスは、肉体をまとった神である、イエスは神格の一部である、キリストの神性を 証言できないなら、その人が何であろうと関係ありません。

なぜなら、彼ら全員が、イエスは良い人だったと言いますから。彼らはみな、彼は良い教師だったと言います。いくつかの宗教は、イエスはイスラム教の預言者だったと言います。違います。彼は神です。

「その御霊がわたしについてあかしします。あなたがたもあかしするのです。初めからわたしといっしょにいたからです。」（ヨハネ15:27-26）そして、使徒の働き5:32 **「私達はそのことの証人です。神がご自分に（何？）従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」**（使徒の働き5:32）私達は、聖霊を与えられただけではありません。ギリシャ語では、それよりもさらに強いことを言っています。聖書は、私達は御霊の証印を押されていると言います。

第二コリント1:21-22 「私たちをあなたがたといっしょに キリストのうちに堅く保ち、 私たちに油をそそがれた方は神です。 神はまた（何？）確認の印を私たちに押し、（何？）保証として、御霊を 私たちの心に与えてくださいました。」（第二コリント1:21-22）

ギリシャ語で「保証」とは何だか知っていますか？ギリシャ語の単語は"arrabōna"で、これは保証金を意味します。あなたの中の聖霊は、神が与えられた保証金です。

何の為の？私達がここから取り去られる時の全支払いのです。まるで、こんな風に。

「ほら、今これを取っておきなさい。必要になるから。」それが最初の支払いです。そういう事です。"arrabōna"。

ところで、同じことがエペソ人への手紙1章でも見られます。

最初の3章、その書簡は全部で6章ですが、最初の3章は、神が、私達のためにして下さった事についてで、そして、その3つの章で、私達にはたった一つの戒めがあります。

それは、あなた方が以前はどういう者であったかを思い出しなさい。それだけです。

「この方にあってあなたがたもまた...」 何の後ですか？聖書大学に行った後、ですか？

いいえ。神学校を終えた後、ですか？違います！何の後？ **「...真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き...」** さて、それは聞くだけでは不十分です。 **「...またそれを信じたことにより」** あなたが、真実のことば、救いの福音を聞き、あなたが信じた瞬間... 何が起こりますか？ほら、私が言ったのではありません。彼がそれを言ったのです。問題があるなら、パウロの所

に行って、彼に話してください。前回聞いた所では、彼はイエスご自身からそれを聞いています。「**約束の聖霊をもって証印を押されました。聖霊は...（何？）**」保証金、"arrabōna"、覚えていますか？「**...聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。**」（エペソ1:13-14）どの贖い？ 何の？
ローマ8:23 「**そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている 私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、（何？）私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。**」（ローマ8:23）

その通り。ご自分を見て下さい。あなたは、キリストにあって新しく創られた者かも知れません。あなたは新しい霊、新しい心を持っているかも知れません。しかし、あなたは新しい体を持っていません。私は新しい体を持っていません。私達はまだ、罪深い体の中にいて、私達はまだ、この肉の中に 閉じ込められています。そして、神の御国を相続するために、聖なる神の御前に行くために、私達は、どうならなければなりませんか？

変えられる。「何を言ってんだ？」変えられる、です。

ご自分を見て、20年前のあなたの写真を出してください。あなたは、死につつあるのです。私達は死につつある。「でも、私は18歳です。」待っていなさい！ そこからは、下り坂です。皆さん、私達は皆、変えられなければなりません。だから、将来的な受け入れ、贖いは、身体の贖いです。なぜなら、私達はすでに贖われていますから。そして、興味深いのは、「証印」という言葉は、印を押すという意味で、印は、真正性、所有権を示します。

ギリシャ語は、"SPHRAGIZO"。"SPHRAGIZO"..."Sphragis"は「印」で、"SPHRAGIZO"は、「証印を押される」すごいです。神は、あなたに証印を押されたのです。彼は保証金を支払い、彼は証印を押された。あなたは本物です。

あなたが本当に信じているなら、そして、あなたは約束の御霊、真理の御霊を持っています。さて、これで、御霊が誰であるかが分かりました。御霊と花嫁。しかし、花嫁とは誰ですか？エペソ5章は告げています。「**夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いををもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり...**」誰の為に？他の誰かですか？ いいえ「**ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。**」（エペソ5:25-27）

黙示録19章「**また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。』御使いは私に『小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい』**と言い、また『**これは神の真実のことばです**』と言った。」（黙示録19:6-9）

私達が、花嫁です。「何だって?!」と言う人もいるでしょう。はい。私達には、出席すべき結婚式があって、その結婚式はここではありません。あそこ（上）です。そこに上がるためには、私達は、連れて行かれてそこに居なければなりません。前回、私が調べた限り、私達は飛べません。私達はまず、変えられなければなりません。あなたが変えられた時、重力の法則は、もう、あなたに対して何の力もありません。私達は行ってしまふのです。ブーン！...そして、私達は主と一緒にです。

「また、最後の七つの災害の満ちている あの七つの鉢を持っていた 七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。『ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である 花嫁を見せましょう。』」（黙示録21:9）

天で、彼は花嫁を見せています。私達は、天にいますから。その恐ろしい大患難が、地に下される時。 実際、花嫁にするのは御霊です。もし、私達集団が、日曜日の朝、ここに座っていて、そして、私達の内に聖霊が居なければ、私達は、花嫁ではありません。

私達を花嫁にするのは、イエスへの信仰です。私達が信じた時、私達に聖霊が与えられたのです。 約束の御霊、助け主、真理の御霊、慰め主、世に罪を証明すべき方、罪とは何かを世に示す方。しかし、私達にとって、それは真理の御霊で、今、私達は、真実の中にいるのです。私達は、道であり、真実であり、いのちである方を信じています。ヨハネ3:5で、次のように述べています。

「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません。」（ヨハネ3:5）

主は、誰にそれを言っているのですか？ 彼の名前は?...ニコデモです。彼は何者でしたか？ 異邦人？ ユダヤ人。 彼は実際に、イスラエルの教師です。そして、主はユダヤ人の教師に言っているのです。彼は、彼に言っています。「あなたはイスラエルの教師でありながら、わからないのですか。水によって生まれる...」女性の皆さんは、知っていますね？ 破水すると... 水によって生まれます。私達は皆、偉大な水泳選手だったのです。その後、私達は忘れて、それから、私達は、また習います。しかし皆さん、御国に入る為には、水によって生まれるだけでは足りません。人は、水と御霊によって生まれなければなりません。

使徒の働き2:1-4「**五旬節の日になって、 みなが一つ（ワン・アコード）**」これはホンダではありませんよ？「**みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。**」使徒の働き2:1-4 これは、異言についての教えです。良いですね？ ”他国のことば”で、他国の人達が、彼らの言うことを理解する為です。

ハロー？ そして、これを見てください。第一コリント12:13

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」（第一コリント12:13）

分かりますか？ 同じ御霊です。ユダヤ人のための聖霊、そしてギリシヤ人のための聖霊、ラスベガスのための聖霊、というわけではありません。ラスベガスの墮落した霊はありますが、しかし、それは聖霊ではなく、別の話です。

「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」（ガラテヤ3:27）そして、ローマ8:9 「けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」（ローマ8:9）

これを理解してください。"10人の乙女"のたとえに、非常に多くの異なる解釈があることを知っています。でも、せっかくここにいるので、私の解釈を教えてください。聖書は、はっきりと言っています。「ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。」（マタイ25:6）

ハロー？ 誰かが花婿と呼ばれる時、それは何に適用されますか？ 結婚式です！

「そら、花婿だ。迎えに出よ！」さて、私は考えるのですが... よく聞いてください。私は花婿です。それで、私は誰に会いに行きますか？ 誰？ 他の女の子？ 他の人？ 他の娘？

もちろん花嫁です！ そして、彼が言うことを見てください。「『そら、花婿だ。迎えに出よ』と叫ぶ声がした。娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに（何？） 婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。」（マタイ25:6-10）

前回、私が聞いた時には... ところで、これは、「一人は取られ、一人は残される」と主が仰った数節後です。前回、「戸が閉められる」と私が聞いたのは、準備ができていない者は取られ、準備ができていない者は取られない、の場面です。

では、ここでの、"準備メーター"は何ですか？ 油。そして、油とは何ですか？ 聖霊です。

短期間なら、自力で走る事も出来ます。しばらくの間は、フリをすることが出来ます。

しかし、あなたが聖霊の絶え間ない流れを持っていなければ、あなたが、あなたの内に聖霊を持っていなければ起こりません。借りるのではなく、誰かを見て、その人の行動を真似て、まるで、自分が持っているように見せかけるのでもありません。皆さん、御霊と花嫁は、引き

止める者です。「うう... それはどういう意味ですか。」引き止める者が、引き止めるためには、教会として知られている体の中に、聖霊の存在が必要です。

そして、教会は、何と呼ばれていますか？...世の光、地の塩です。塩の目的は何ですか？ 保存し、風味を保ち、そして崩壊を遅らせる。皆さんは、それを知っていましたか？

古代は、兵士が死ぬと、塩の袋に死体を入れて運んだのです。そうして、数日後、または数週間後でも、埋葬出来るように。はい、塩は腐敗を遅くします。想像してください。もし、すべてのキリスト教徒がいなくなったら、この国がどうなっていたか。もし、教会が存在しなかったら。

マタイ5章「あなたがたは...？」ハロー？（マタイ5:13）「...地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、（何？）外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」

ところで、当時のローマ軍兵士は、塩が味を失い、それが大量に余った場合、雨が降って、通りを洗うと、彼らが、それで何をしていたか知っていますか？聞いて下さい。彼らは、道路にそれを捨てていたのです。雑草が生えないように。そうやって彼らは、道路をいつも綺麗に保っていたのです。そして道路は...道路上で何をしていますか？ [歩く] その通り。その上を歩き、その上を踏みにじる。私達が、もし、塩気を失えば、私達は、何の価値もなくなり、ただ、人々に踏みにじられるでしょう。

そして、彼は言われます。「あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て...」 "あなた"をあげめるようにしなさい？ いいえ！

「人々があなたがたの良い行いを見て、（誰を？）天におられるあなたがたの父を あがめるようにしなさい。」（マタイ5:13-16）それが、信者の仕事です。あなたの振る舞いを見て、人を主に向かわせるのです。あなたをあげめるものではありません。

「私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話しておいたのを、思い出しませんか。」（第二テサロニケ2:5）

パウロは、テサロニケの人たちに促しています。

「あなたがたが知っているとおりに、彼（不法の者、あの反キリスト...）が その定められた時に現れるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。」 不法が始まったのはいつですか？ 創世記第3章、その通り。そして、不法状態がピークに達したのは、いつですか？ ...創世記6章。私達人間は、たった3章しかもちませんでした。私達は、主が居なければそれほど哀れなのです。私達が、自分のやり方を選択すれば、3章で

す。そして6章で、神は心を痛められ、この世を造った事を悔やむ、と仰います。神がそう仰ったのです。

これは、おそらく聖書の中で最も悲しい部分です。彼はこう言われます。

「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」（創世記 6:5-6）

ですから、**「不法の秘密はすでに働いています。（間違いありません。）しかし今は引き止める者（私達の内にある聖霊）があって、...引き止めているのです。」**これには有効期限があります。いつまで？**「自分が取り除かれる時まで、引き止めているのです。その時になると...」**一緒に言いましょ。 **「その時になると」「その時になると」とは、その後を意味します。唯一、私達が取り除かれた時、初めて、その「時になると、不法の人（反キリスト）が現れますが、（その同じ不法の人を）主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。」**（第二テサロニケ2:7-8）

イエスは、花嫁のために雲の中に戻って来られます。**「私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで、生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、...ご自身...」** 言ってください。「主ご自身」主は、他の人を送られるのではありません。「ちょっとミカエル、こっちに来なさい。あの人達が見えるだろ？私の代わりに彼らを迎えに行ってくれないか？」いいえ。「**...ご自身天から下って来られます。」**主は今、どこに居られますか？天です。彼は御父の右におられます。

どうして私に分かるのか？誰が彼を見ましたか？主が御父の右に立っておられるのを、誰が見ましたか？ヨハネが天に上げられた時の話ではなく、地上で、誰でしたか？

ステパノは、石打ちに遭って死にましたね。覚えていますか？彼は、主を見ました。

「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。」これは、天です。ラッパは天にあります。**「御使いのかしらの声と、神のラッパ」**それは、あちら（天）にあります。誰もが考えています。「ああ、ラッパの祭りだ...ラッパの祭り！」しかしラッパの祭りは、主がここに戻って来られる時です。ラッパがここで鳴る時、主は、ここでイスラエルに戻って来られるのです。それは、贖いであるヨム・キプールの直前に成就しなければなりませんから。イスラエルの悔い改めです。

そして、仮庵の祭り、これは、千年王国です。ポン、ポン、ポン、ポン！春の例祭が、すべて同じ時代に成就したように、秋の例祭も成就します。

「次に、生き残っている私たちが...」「私達」と言ってください。皆さんは今、死んでいますか？いいえ。ですから、**「生き残っている私達」**これは、皆さんを意味します。

前回、私がチェックした時、皆さんにはまだ脈拍があって、あなたは今、私に微笑んでいます。ですから... 「次に、生き残っている私たちが...」何ですか？「引き上げられ」ギリシャ語のハルパゾです。「ハルパゾ」そしてラテン語の翻訳では、「ラプトゥーロ」そして英語では... いや、ちょっと待ってください。英語では「ラブチャー（携拳）」ではなく、「引き上げられる」です。しかし、ラブチャー（携拳）という言葉は、ラプトゥーロから来ています。「はい。でも、”ラブチャー（携拳）”は聖書にありませんよ。」ええ、もちろん。あなたが、英語の聖書を読んでいるからです。原語を見るべきです。そして”ハルパゾ”を探して、”ラプトゥーロ”を見つければ、はい、それが「ラブチャー（携拳）」です。「次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ」私達とイエスとの集合場所は、どこですか？「それはあまりにも奇妙だ...」いいえ。そんな事ありません！紅海が別れたのは、ものすごく自然で？お願いしますよ！人々は、エリヤが上がるのを見て、「うん。それは大丈夫。」エノクは歩いていて、ピュッと消えた！「まあ、それは良いだろう。」ところが、私達が空中で主にお会いすると？「ああ、奇妙過ぎる。」お願いしますよ！

「このようにして、私たちは...」何ですか？声に出して言ってください「いつまでも」「いつまでも」とは、いつまでもです。あなたが、空中でイエスにお会いした瞬間、その瞬間から、あなたは決して主から離れることはありません。つまり、彼が地球に戻ってくると決めれば、なんと？私達は彼と一緒に戻ってきます。そして、彼が裁くと決めれば、なんと？私達は彼と共に裁きます。そして、彼が治めると決めれば、なんと？私達は、彼と一緒に治めます。皆さんは、ちょっとした名刺を持つことができますよ。「将来の裁判官」または、「知事になる可能性あり」本当の事ですから！

「...私たちは、いつまでも主とともにいることになります。こういうわけですから、（何？）...このことばをもって互いに慰め合いなさい。」（第一テサロニケ4:15-18）
イエスは、再びエルサレムに戻ります。イスラエルのために。「『エドムから来る者、ボツラから深紅の衣を着て来るこの者は、だれか。その着物には威光があり、大いなる力をもって進んで来るこの者は。』『正義を語り、救うに力強い者、それがわたしだ。』『なぜ、あなたの着物は赤く、あなたの衣は酒ぶねを踏む者のようなのか。』『わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。国々の民のうちに、わたしと事を共にする者はいなかった。...』」（イザヤ63:1-3）

ほら、これは、イエスが彼の再臨について本当に語っておられるようです。そして、見ての通り、主は確かに戻って来られます。私達と一緒に、エルサレムに。「主が出て来られる。」ゼカリヤ14章「決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西

に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。」そして、聖書は言います。「私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも 主とともに来る。」（ゼカリヤ14:5）

さて私達は今、歴史の中で、携挙がいつでも起こり得る時点に来ていて、そして、私達は大きなジレンマの中にいます。今、携挙が起こるという事は、多くの人が救われない事を意味し、そして、携挙が後になるという事は、私達全員にとって、多くの苦しみを意味します。どちらですか？ さて、皆さんを助けましょう。良いですか？主は、いつとはあなたに尋ねていません。良いですね？ 神には神のタイミングがあります。良いですね？

そして、彼は、遅れているのではありません。第二ペテロは告げています。「しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が...」言ってください。「すべての人が！」これは、カルヴィン主義者が教えている制限付きの贖いや、他のものに反しています。神は「すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」神は、人を地獄に行くように造られたのではありません。ピリピは告げています。「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」（ピリピ1:29）

そして私達が、主の来臨と、神の御国について活発に活動している時、主は、私達が行くことに関して、そして問題の多い私達の世に関して、活発になられます。皆さん、私達は、時と季節を理解しなければなりません。私達は、理解しなければなりません。昨日、私達が学んだ全ての事が、常に耳に鳴り響いていなければなりません。

エペソ5章、「そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。」...素晴らしい時代だからです？ いいえ！「悪い時代だからです。」（エペソ5:15-16）

クリスチャンは、非常にショックを受けています。この世で、すべてが間違った方に行っているから。

彼らはショックを受けているのです。悪い時代だから！

第一テサロニケ5章「兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。」

どのように？ 夜中の盗人のように。彼は驚きます。そして興味深いことに。「人々が『平和だ。安全だ』と言っている そのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。

ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは 暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。」（第一テサロニケ5:1-5）

私達は、自分達の力で戦う必要はありません。私達は、神の主権を認める必要があります。ヨブ42章「ヨブは主に答えて言った。あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。知識もなく、摂理をおおい隠す者は、だれか。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。さあ聞け。わたしが語る。わたしがあなたに尋ねる。わたしに示せ。私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています。」（ヨブ42:1-6）

ウォ... 私達は信頼しなければならない。繋がり、祈って、私達は求め、尋ね、見張っていないければなりません。

「こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。」（マタイ6:32）

誰もが欲しいと思うもの全て含めて、神は、あなたに必要なものをご存知です。

主は仰います。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」（マタイ6:33）

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」（マタイ7:7）

ここには、積極的なアプローチがあります。彼はあなたに言われます。尋ね、求め、叩きなさい！

「ああ、私は家に居ますよ。神は、何でも主の望む事をされますから。」それは、信者のアプローチではありません。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、（何？）感謝をもってささげる祈りと願いによって...」 お父様、あなたが、これをしようとされている事に感謝します！「（何を？）あなたがたの願い事を、神に知っていただきなさい。」（ピリピ4:6）「私は何も要求したくない。神は、全部知っています。」いいえ！「あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」反対です！御霊と花嫁は言う。何と？「来てください！」

何か問題がありますか？ いいえ！ 暗闇の中を歩いている人々に対して、主の来臨を待っている人達。上から生まれ、聖霊を持つ信者で、イエスに来てほしいと言えない人は、一人も居ません。

よく覚えています。私はある日、シンガポールに降り立って、教会の執事が、そこへ迎えに来てくれましたが、彼は、美しいベンツで私を迎えくれました。私は車が大好きです。そして、私はそこに座っていて、彼は私に言うのです。「ああ、神は私のビジネスをとても祝福して下さい、だから、経済的にとても祝福されて、私は今、夢の家を建てているんです！あそこに住むのが、本当に待ち遠しい。」そして、彼は言いました。「私は、イエスが戻ってこなくても構いません。」彼は、地上の邸宅の方を望むのです。過去2千年間、イエスが彼のために天の邸宅を建てて下さっているのに。

「というのは、すべての人を救う神の恵みが現れ、私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福された望み、...キリスト・イエスの光ある（何？）現れを待ち望むようにと教えさとしたからです。」（テトス11:12,13）

「現れ」は、再臨ではありません。現れ、雲の中に現れるのです。「すなわち、大いなる神であり、（彼は誰ですか？）私たちの救い主である...」彼の名前は何か？イエス、ヘブライ語のイエシュア、これは救いを意味します。

「その名をイエス（救い）とつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」（マタイ1:21）

良いですよ。あなたは彼をイエスと呼んでも。私は構いません。彼はご存知です。ただ、皆さん、知っておいてください**「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちがすべての不法から贖い出し、（何？）良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」**（テトス2:11-14）

「そして、人間には、一度死ぬことと...」人は、一度死ぬことが定められています。地球上のほとんどの人は、一度死ぬでしょう。良いですか？**「...死後にさばきを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく（これ見て下さい。）彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。」**（ヘブル9:27-28）

どの贖いですか？ローマ書8:23、あなたの体の贖いです。二度目は、彼を待ち望んでいる人々の体の救いのために来られるのです。

「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は...」何？これを見て下さい。私を見て下さい。「**すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず**」（ローマ3:23）

私達は...良いですか？はい。皆、裁かれています。善人はいない、地球上に善人は一人も居ません。誰もがすでに裁かれていて、あなたが信じた瞬間、あなたは、すでに裁かれているチームを出て、今は、裁かれないチームです。

だから彼は言っています。「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は...すでにさばかれています。」彼はこのチームです。なぜなら「神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は（何？）光よりもやみを愛した。」（ヨハネ3:18-19）

取り急ぎ、次の事をお伝えしたいと思います。私達は、この世で何が起こるかを知っています。

第二テサロニケ2章「不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行われます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。」

そして、聖書が言うことを見てください。彼らはまた、「悪を喜んでいた」のです。（第二テサロニケ2:9-12）

異邦人の時代は、終わりに近づいています。そして、イスラエルの時代が始まります。

私達はそれを知っています。ローマ11章が、非常に明確にそれを伝えてくれます。

今は、全部を読む時間はありませんが、簡潔に、皆さんにお伝えしたいと思います。

ホセア書5章「彼ら（イスラエル）が自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻ってしよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。」（ホセア5:15）聖書は告げています。エルサレムが、主に戻って来て下さるように求めるまで、イエスは、エルサレムに戻って来られません。求めなさい！

「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。あなたがたに告げます。...あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません（何時まで？）『Baruch Haba B'shem Adonai』とあなたがたが言うときまで！『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』（マタイ23:37-39）

私達が、神に来て下さるように求める事を、神が願っておられるという事実が、私は大好きです。

モーセ、私のお気に入り！私の大好きな箇所。私が本にサインする時は、いつも「出エジプト記33:13」と書きます。彼の言うことを見てください。「さて、モーセは主に申し上げた。

『ご覧ください。あなたは私に...』」私は今、モーセを見ていますが、これは、非常にユダヤ的な態度です。

「あなたは私に、”この民を連れて上れ”と仰せになります。しかし、だれを私といっしょに遣わすかを知らせてくださいません。しかも、あなたご自身で『わたしは、あなたを名ざして選

び出した。あなたは特にわたしの心になんてかかっている』と仰せになりました。」モーセは神に言っています。「あなたは私に仰います。私を愛している、私は大丈夫だ。でも、私にどうやって進めと言うのです?! 誰と一緒にいくのかを、教えてくださいませんか。私は一人でいくつもりはありません!」そして、彼は言いました。

「今、もしも、私があなたのお心になんてかかっているのだとしたら、どうか、あなたの道を教えてください。そうすれば、私はあなたを知ることができ、あなたのお心になんかようになれるでしょう。この国民があなたの民であることを、お心に留めてください。」（出エジプト記 33:12-13）

モーセは言っています。「ちょっと、彼らは私のものではありません。」「ああ...彼らはあなたのもので。」「それは、私の問題ではありません! それはあなたの問題です。」そして、彼は言いました。見てください。神は仰います。神はそれをとても気に入ったのです。神は、この大胆さを愛されました。基本的にモーセは、こう言いました。

「私はここから動かない。」「すると主は仰せられた。『わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。』それでモーセは申し上げた。『もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。私とあなたの民とが、あなたのお心になんてかかっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって...』」（出エジプト記 33:12-17）

イエスの来臨を求め、要求することは、正当なだけでなく、実際にそれは神にとって甘い香りです。御霊と花嫁は、確かに言います。「来てください!」私達は、熱心に主が来られるのを待たなければなりません。

「被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。...そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。...もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐をもって熱心に待ちます。」（ローマ 8:19-25）

第一コリント 1:7 「その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待っています。」（ガラテヤ 5:5）

「私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。」（ピリピ 3:20）「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」（ヘブル 9:28）

「キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。」（第二テモテ 4:6-8）

「私は今や注ぎの供え物となります。」パウロは、死の間際で、彼は言います。

「私が世を去る時はすでに来ました。私は勇敢に戦い、（過去形です）走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。」

彼は言います。「見なさい！そこに栄冠がある。しかし、私は今日は、それを受け取りません。」「私は今日死ぬかもしれない。しかし…」見てください、彼は言いました。

「かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、（誰にも？）主の現れを慕っている者には、”だれにでも”授けてくださるのです。」（第二テモテ4:6-8）

パウロ、彼は忍耐強いです。「私はそれを見ている！でも、私は待つとしよう。皆さんのために。」

「これらのことをあかしする方がこう言われる。『しかり。わたしはすぐに来る。』 アーメン。（一緒に言いましょ）主イエスよ、来てください。」（黙示録22:20）
ありがとうございました。神の祝福がありますように。